

和の光

宝塚市立西谷中学校



中学3年生と高校受験

私は、受験期の中学生が、いちばん好きです。などという、いま心配でいっぱいのお母さん方からは、ひとごとだと思って、と反発されるかも知れません。

なぜなら、前にも述べたように、「打てば響く」からです。自立を前にして高まる。子どもの胸の鼓動が聞こえるからです。この時期には、これまでできなかったこともできます。たとえば、生活のリズムを確立することもその一つです。

いま、2学期の中間テストを終えて、中学での勉強のまとめに入る時期に、何よりも大切なのは、一日一日の授業をしっかりと受けることです。朝9時ごろから始まるこの一時間一時間にベストコンディションで取り組むためには、少なくともその2時間前には起きて、体を動かしておくことが大切です。学校の授業とは別に、自分で組み立てた勉強のシステムを持つことは望ましいのですが、何よりもまず、5～6時間の授業そのものにおいて、最も活動的であり、積極的であることが大事です。そこでの緊張した一刻一刻が子どもの力になります。知能を鍛えます。生活を規律あるものにする意味が、子どもにいちばん納得されやすいのがこの時期ではないでしょうか。

もちろん、そんなにすなりといくとは限りません。でも、多くの子どもたちは、厳しい条件の中でも、いま、発達への欲求をうずかせながら、苦闘しています。襟（えり）を正し、悩みも喜びも子どもと共感しつつ、親・大人としての責任を、どう果たすべきか考えましょう。子育てこそは、親が育てられる場なのです。

この文章は、ある新聞のコラム「中学3年生と受験期」に載っていたものです。保護者の皆さんもご自身が中学生の頃、受験に対する不安を多少は持たれていたのではないのでしょうか？ 特に中学3年生の1年間は「進路に対する希望や不安」で心が大きく揺れる時期です。しかし、子どもたちは、自立に向けて精神的に最も成長する時期で、私たち教師や大人が子どもの心に寄り添い、自分事として生活や学習の在り方、進路について考えていくことが大切だと思います。

頭ごなしに叱ったり、子どものことを否定したりするようでは、子どもは何も変わりません。私たち教師や大人が、いかに子どもの心を理解し、共に考えていけるかが、一番大切なことだと思います。そうすれば、必ず私たち教師や大人の思いが子どもに伝わります。**打てば響く、そんな関係がつかれるように努めたいと思います。**

学校長 筒井 啓介

■生徒朝礼を行いました



専門委員会からの活動報告



ジェスチャーゲーム（お題は「リス」）



ジェスチャーゲーム（お題は「ミッキー」）

今までは、月に1回15分間の生徒朝礼でしたが、今年からは50分間に時間を変更しました。従来のように、委員会の活動報告や校長の話を聞くだけでなく、**生徒会が中心となって、西谷中の活性化には今何が必要かを考えて、その時期に必要な内容にじっくりと取り組んで欲しいという目的で、内容の検討を生徒会にお願いしました。**そこで、新入生と2・3年生が交流を深められるようにジェスチャーゲームを行い、みんなで盛り上がりました。また、人前で話すことに慣れてもらえるように、ゲームの感想をインタビューする等の工夫も見られました。生徒会執行部の皆さん、生徒朝礼の新たな取り組みを有難うございます。更に充実した生徒朝礼になることを楽しみにしています。

（4月18日）

■地域の方から心温まるお手紙をいただきました。

西谷にお住いの方（西谷中卒業生）から、学校通信「和の光」を読んで、心温まるご丁寧なお手紙をいただきましたので、紹介させていただきます。

春榮まつ盛りの候でございます。

「和の光」お送り頂きありがとうございます。

三年生の皆さんは、しっかりとがんばってね。入試のほうも

面接練習のお願いとか、論文対策の資料も頂きました。

校長室も暑かたし、校長先生と生徒との距離が

近くなりました。新一年生も校長先生はじめ諸先生方のもとで

学んで遊んで、そして西谷中学校と母校とでよいことに感謝と

誇りの心を持ちますこと、思います。

西谷中の三年生は皆、おそろしく残り、いふから大人の姿用紙と
と渡らせています。高校に行く準備OKです。

校長先生に「和の光」が届いて頂いて三年生の皆さん

が顔もやがてうきで、（お名前はおそろしく）親戚

感謝しております。

卒業生の写真を見ては涙が止まらぬ。

吉野山、コロボシ、赤花の中、から大海へ漕ぎ出ると

行かぬに、心のやがて応援。

校長先生

どうぞお身体が大切に留まらせて下さい。

令和七年四月一日

西谷中学校

校長 菅井 啓介 様